

# 大分県立美術館のシンボルマーク決定について

## 1. シンボルマーク



## 2. シンボルマークのイメージについて

大分県立美術館のヴィジュアル・アイデンティティは、同館の特徴である可変性、拡張性、多様性を象徴的に視覚化、知覚化したものです。時代を超える普遍性を有すると同時に、親しみやすさを目指したデザインです。シンボルマークのエLEMENTは、大分県立美術館の欧文表記「Oita Prefectural Art Museum」の頭文字 O・P・A・M を用いた「OPAM」(オーパム)です。大分の発展をイメージし、Oの文字は太陽を彷彿させる円のフォルムに、Aの文字は天に延びるような長体にし、動きのあるシンボルマークを設計しました。有機的なセリフを持つローマン体オリジナル欧文書体のシンボルマークは、レタリングによる工芸的な技を駆使し、人の手技による緻密さと温もりを取り入れました。

平野敬子 × 工藤青石(コミュニケーションデザイン研究所)

## 2. 和文ロゴタイプ(オリジナル書体)

# 大分県立美術館

## 3. 欧文ロゴタイプ(オリジナル書体)

# Oita Prefectural Art Museum

## 5. 制作者

### CDL 平野敬子 × 工藤青石 (コミュニケーションデザイン研究所)



#### 平野 敬子 (ひらの けいこ) コミュニケーションデザイン研究所 所長 デザイナー / ビジョナー

1959年兵庫生まれ。1997年HIRANO STUDIO設立。2005年工藤青石とともにコミュニケーションデザイン研究所(CDL)を設立。グラフィック、プロダクト、空間、ブランディング、展覧会の企画・構成など、多様な領域でデザインを具体化する。

主な仕事 東京国立近代美術館のシンボルマーク・ロゴタイプ・VI計画、同美術館60周年記念事業のシンボルマークを中心とした一連のデザイン、資生堂「qiora」のブランディング、NTTドコモの携帯電話「F702iD所作」のトータルデザイン、白を極めたファンシーペーパー「ルミネッセンス」開発デザイン、鹿島建設K-Towerの鏡のデザイン、展覧会「時代のアイコン」展、「デザインの理念と実践」展の企画・構成・空間デザイン・書籍の編纂など。

主な受賞 毎日デザイン賞、東京ADC賞、NewYorkADC金賞、第15回亀倉雄策賞、JAGDA賞、日本パッケージデザイン大賞金賞、IFデザイン賞。

[www.cdlab.jp](http://www.cdlab.jp)

#### 工藤 青石 (くどう あおし) コミュニケーションデザイン研究所 代表 デザイナー / クリエイティブディレクター

1964年東京生まれ。1988年東京芸術大学卒。同年資生堂入社。1992年から4年間パリ勤務。独立後2005年平野敬子とともにコミュニケーションデザイン研究所(CDL)を設立。グラフィック、プロダクト、空間、ブランディング、展覧会のプロデューサーなど、多様な領域でデザインを具体化する。

東京芸術大学非常勤講師

主な仕事 「SHISEIDO MEN」「IPSA」「qiora」など化粧品のデザイン、「資生堂プロフェッショナル」ブランドのトータルディレクション、銀座ハウスオブシセイドウのインタラクティブな装置「アーカイブテーブル」ブランニング・デザイン、三越「ギフトプロモーション」のクリエイティブディレクション、竹尾・日清紡の紙「気包紙」開発デザイン。

主な受賞 毎日デザイン賞、東京ADC賞、東京ADC会員賞、JAGDA賞、日本パッケージデザイン大賞4回、米国建築家協会ニューヨーク最優秀デザイン賞、ID-Award。

[www.cdlab.jp](http://www.cdlab.jp)